MAGA が 2028 年に勝つ可能性を残すには、トランプは欧州へのエネルギー輸出を制限しなければならない

（Trump Must Curtail Energy Exports To Europe If MAGA Is To Have Any Chance In 2028）
Trump Must Curtail Energy Exports To Europe If MAGA Is To Have Any Chance In 2028

トランプは 2028 年の次の選挙に向けて燃料価格を引き下げるため、欧州向けのエネルギーを速やかに米国内に振り向けるべきだ。ただし、そうなっても欧州連合（EU）がエネルギー不足で困ることにはならない。米国の仲介によって EU、ウクライナ、ロシアが大きな合意に達すれば、ロシアからパイプラインを通じたエネルギー輸出が再開され、減少した米国からの輸入を補うことができるからだ。

以前の記事「トランプの歴史的評価は、最終的に第三次湾岸戦争の結果によって決まる」では、第三次湾岸戦争による生活費の急上昇が、中間選挙で共和党が惨敗した原因だと指摘した。MAGA 支持者の一部が投票に行かなかったり、抗議の意思を示すために民主党に投票したりしたためだ。

この見方は、その後まもなく JD・バンスも示している。バンスは X への投稿で、ある世論調査専門家から、こうした事態が起きることとその理由について、事前に知らされていたと明らかにした。ただし、その専門家の名前は明かしていない。

仮に米国とイランが今後数週間以内に戦争を終わらせるという最も望ましい展開になったとしても、問題は残る。エネルギー情報サイトのOilPrice.com は、「世界的なディーゼル燃料不足は 2027 年に入っても長く続く見通し」と報じている。湾岸地域とロシアでは、それぞれの紛争によって石油精製能力が低下しているためだ。

したがって、第三次湾岸戦争を終わらせるだけでは不十分だ。世界のエネルギー市場が安定を取り戻し、MAGA が 2028 年に生き残る可能性を確保するには、ウクライナ紛争も早期に終結させる必要がある。

2027 年を通じて湾岸地域とロシアからのエネルギー供給が徐々に回復したとしても、米国内の燃料価格や生活費が、有権者の望む速さで下がるとは限らない。さらに、さまざまな問題が起きて価格が再び上昇し、それまでの成果が失われる可能性もある。

そのため、トランプは欧州へのエネルギー輸出を制限し、米国内への供給を優先する必要があるだろう。EU 統計局（ユーロスタット）によると、2026 年第 2 四半期には、EU が輸入した石油の 18.8%、液化天然ガス（LNG）の 63.2%を米国が供給していた。これはかなり大きな割合だ。

アジア向けの輸出を制限するよりも、欧州向けの輸出を制限する方が現実的だ。米国が欧州への供給を減らしても、ロシアがその不足分を補うことが十分に可能だからだ。

ロシアと EU を結ぶ主要なパイプラインのいくつかは、制裁によって現在使われていない。

米国は、EU が自らの判断でロシア産エネルギーの輸入をやめた後、その穴を埋める形でエネルギー供給を増やし、2022 年以前には低下傾向にあった EU に対する影響力を再び強めた。

しかし、世界的なエネルギー危機が続くなか、こうした政策を政治的に維持することはもはや難しい。エネルギー危機によって MAGA が歴史の舞台から退場する恐れがあるためだ。

例えば、トランプが近く、翌月から EU 向けの米国産エネルギー輸出を制限すると発表すれば、欧州諸国はロシア産エネルギーの輸入を再開する以外に選択肢がなくなるだろう。

そうなれば、米国、EU、ロシア、ウクライナの 4 者は、11 月いっぱいを使って大きな合意をまとめることができる。

以前の報道によると、トランプの和平案の柱の一つは、ロシアから EU へのパイプラインによるエネルギー輸出を再開することだ。EU とロシアの間にかつて存在した複雑な相互依存関係を回復させ、新たな紛争が起きる可能性を低くすることが狙いだという。

これに加えて、以前の記事「エネルギー外交の工夫によって、米国は EU にロシア資産の凍結を解除させることができる」で指摘した方法も考えられる。

米国が EU にロシア資産の凍結を解除させ、その資産をロシアに返還す

る見返りとして、ロシアと EU を結ぶパイプラインや関連するエネルギー企業の権益を取得するというものだ。

こうした米国の権益は、ロシアから欧州へのエネルギー輸出が再開された後、その供給が政治的な理由で再び妨げられることを防ぐための「政治的な安全策」となる。

同時に、別の記事で示した戦後の欧州の新たな安全保障体制についても、具体的な取り決めを固めることができる。

これらが実現すれば、まさに大きな合意となり、2028 年に MAGA を救うことにつながるかもしれない。

第三次湾岸戦争が終われば、湾岸地域から世界市場へのエネルギー供給は徐々に回復する。また、ウクライナ紛争が終われば、ロシアは被害を受けた製油所を修復し、同じように供給を回復させることができる。いずれも、エネルギー価格を引き下げるための重要な一歩となる。

しかし、それだけでは米国の有権者が望むほど速く価格が下がらない可能性がある。米国が EU 向けに輸出しているエネルギーの一部を国内市場に振り向けることも必要だ。

これを実行するには、非常に強い政治的な決断が求められる。それでもトランプは、ここで示した一連の措置を実行しなければならない。そうしなければ、すべてを失う危険がある。